

## 令和3年度三重県農村地域資源保全向上委員会（第1回）の議事概要

### ■ 開催日時

令和3年6月14日（月）9時00分から12時00分まで

### ■ 開催場所

三重県庁講堂棟3階 131会議室（三重県津市広明町13番地）

### ■ 出席委員

大野委員長、伊藤委員、奥山委員、丸山委員、宮村委員 計5名

### ■ 議事概要

#### 1 中山間ふるさと水と土保全対策事業について

##### （1）ふるさと水と土農村環境創造事業の新規実施計画採択について

・事務局より、令和2年度の事業実績と令和3年度の新規実施計画について説明を行った。

（委員）ふるさと水と土農村環境創造事業の祓川沿岸地域（第4期）新規実施計画について、新たな取組が見受けられないが、このまま採択していいのですか。

（事務局）4期対策中に財政的な支援がなくても自立して活動ができるような仕組み作りを行うことで採択する方針です。

（委員）SNSを用いて四季の移り変わりをPRする際に河川が中心だと思うが、周りの田畑についても発信することで、外部の協力メンバーをうまく集めていく必要があると思います。

（事務局）4期対策にはSNSを用いた効果的な情報発信と協力メンバーの収集についても計画に記載するように実施主体に働きかけます。

##### （2）三重のふるさと応援カンパニー推進事業について

・事務局より、令和2年度の事業実績と令和3年度の取組内容について説明を行った。

（委員）協定終了になっているものもあるが、協定の期間については定められているのですか。

（事務局）協定の期間は定めていないですが、地域側の高齢化や中心となっていた人の後継者不足、企業側の情勢の変化などにより協定が休止や終了となっています。

（委員）協定を結んでいる企業の職員は協定について全員把握しているのでしょうか。

（事務局）企業の中でどのくらい浸透しているかは把握しておりません。

（委員）全員が把握しているとは考えにくいので、名刺の裏に事業のロゴを

入れるなど社員に意識してもらうとともに、対外的に PR できるような活動をしてはどうでしょうか。

(事務局) そのような PR 方法も検討させていただきます。

### (3) 子ども農山漁村ふるさと体験推進事業について

・事務局より、令和2年度の事業実績と令和3年度の取組内容について説明を行った。

(委員) 指導者養成講座やセミナーについてはオンライン等で開催予定でしょうか。

(事務局) オンラインや県内の会場で少人数での開催等、感染防止対策を十分に講じて行います。

(委員) インバウンドにも対応した農林漁業体験民宿の開業支援とは、言葉の壁についても対応可能な研修を受けてもらうのでしょうか。

(事務局) 言葉の壁までの対応は困難ですが、インバウンドで滞在している方の求めているニーズの把握や情報共有を主に考えています。

## 2 日本型直接支払事業について

### (1) 多面的機能支払事業について

・事務局より、令和2年度の事業実績と令和3年度の取組内容について説明を行った。

(委員) 東海農政局の抽出検査で何か指摘事項はありましたか。

(事務局) 活動内容等の大きな指摘事項はありませんでした。

(委員) 三重のつどいが中止になってしまったが、代わりに何か対応はしましたか。

(事務局) 代替りの対応としては、コロナ禍でも活動している組織の取組を広報誌等で全組織に紹介したり、周知の必要がある事項や田んぼダムの取組などについて研修会を通じて周知しました。

### (2) 中山間地域等直接支払事業について

・事務局より、令和2年度の事業実績と令和3年度の取組内容について説明を行った。

(委員) 指定棚田地域について丸山千枚田と西山の棚田は指定されているが、坂本棚田や深野だんだん田は指定されないのでしょうか。

(事務局) 地元の協議会から申請がないと指定されないため、申請について相談があれば対応をしますが、現在指定についての相談はありません。振興計画については、今年度以降丸山千枚田、西山の棚田ともに作成予定です。

(委員) 棚田カードについては棚田百選に選ばれていないと作成できないのでしょうか。

(事務局) 棚田百選に選ばれていなくても作成は可能です。協議会から要望がありましたら国へ追加の要望を行っていきたいと思います。

### (3) 環境保全型農業直接支払事業について

・事務局より、令和2年度の事業実績と令和3年度の実施内容について説明を行った。

(委員) 令和2年度実績のカバークロップの交付額が減少しているのはなぜでしょうか。

(事務局) 国の交付単価の精査により、令和2年度より交付単価が10aあたり8千円から6千円に変更されたことによるものです。

(委員) 指標生物の同定は誰が行うのでしょうか。

(事務局) 経験が豊富な農業研究所の職員が行います。

### 3 中山間地農業ルネッサンス推進事業について

・事務局より、令和2年度の事業実績と令和3年度の実施内容について説明を行った。

(委員) 海外に住んでいる方へ伊賀米を販売する際にとありますが、販路はすでにあるのでしょうか。

(事務局) 現状確立されたものはありませんが、海外に住んでいる伊賀市出身の方をターゲットに今後開拓していきたいと考えています。

(委員) ほとんどの地域で六次産業化の推進を計画に記載しているが進捗状況はどうでしょうか。

(事務局) 六次産業化の国補助事業で加工施設や直売所の計画があるので記載しています。

#### ■ 会議の公開・非公開

公開

#### ■ 傍聴者・報道関係者

なし

#### ■ 問い合わせ先

三重県津市広明町13番地

三重県農林水産部農山漁村づくり課農地水保全班

担当：梅村、片田、小栗 TEL 059-224-2551